

SP = Small but Powerful 小さいのに 15km/h から最大の発電量に達するハブダイナモ

SP (エスピー) = Shitter Precision (シャッター プレシジョン) は、精度の高さを社命としています。

今回は SP 社についてのお話です。秋の日はつるべ落とし・・・そんな季節に灯火の話題を。

▶ SP 社は 2007 年にデジタルカメラシャッターの量産工場からスタートし、携帯電話のミニシャッターや高精度光学検査装置などを開発。

現在、自転車用ハブダイナモの生産などを行っており、当社とは 10 年以上のお付き合いがあります。軽量と強度の究極のバランスを追求し、ライダーの快適性と負担軽減を基本に「人こそが最も美しい存在」という根幹理念を掲げています。



▲ 2007 年に台湾台中の「田んぼの真ん中」で 3 人で立ち上げた SP 社

▶ 世界最小で最軽量・・・まずこのシンプルな目標に向かいスタートしました。しかもライダーはハブダイナモの存在 (= 抵抗) を感じずに安定した効率的電力伝達を体感できる優れものです。例えばグラベル系の 12mm スルーアクスル「PL-7」の重量は競合モデルより 70g 程度軽量で価格もリーズナブル。勿論ドイツ基準の品質を満たしています。※ SP のハブダイナモ (3.0W) にはハブ本体に過電圧保護装置が内蔵されていませんので、ご使用ライトには内蔵義務があるドイツ規格適合モデルのライトをお選びください。

▶ 特に 2011 年に誕生した「PV-8」は 400g を切った最初のハブダイナモで、エポックメイキングでありマイルストーンとされています。

それは「最小・最軽量」の実現そのものでした。勿論現在も販売しています。PV の P は Powerful の意味で 26 インチや 700C 用となります。



▲ 2011 年に誕生した「PV-8」は 400g を切った SP 社の重要で象徴的なポイントとなる製品



▶ また近年「DT SWISS」とのコラボレーションから生まれた「DT SWISS 350 / SP PL-7」グラベルホイールセットは DT の 25 年ぶりとなるハブダイナモ製品への復帰モデルとなりました。アドベンチャーと日常での信頼性と性能のバランスを実現した製品になっています。このコラボは互いの更なる品質向上につながりました。



▲「PL-7」は DT SWISS とのコラボレーションホイールにも使用されたグラベル / アドベンチャー向け 12mm スルー
※写真のホイールは DT SWISS ではありません

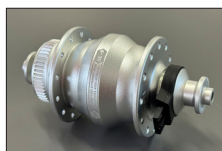


▲「SOMA JAWBONE」に装着のライトは過電圧保護装置内蔵の「JING YI 50Lux ダイナモライト」。高輝なダブル凸レンズでデイトランニングも備わる

▶ SP ハブダイナモの外観にも注目していただきたいのですが、そこには高い一貫性が宿っています。複雑なデザインを意図的に削減しながらも SPらしい個性が存在します。中身と外見の高度なバランスの実現・・・つまりディテールとテクノロジーが高次元でバランスされた製品、それが SP ハブダイナモの象徴的な特徴と言えます。

ロングライドから通勤、秋の夜長、快適ライドに・・・

・・・Small but Powerful な SP は頼れるアイテムになるでしょう。



▲最軽量の 9 シリーズ「SL-9」。
最小で軽量を実現した小径 / 大径ホイールに対応するモデル。
S は Small Wheel Bikes の意味 P は Powerful の意味



▲MTB 向けの 6 シリーズ「PL-6」は 15mm スルーアクスルモデル、これでも 360g ほど。



▲小径専用モデル「SV-9-FC」はリムブレーキ用の小径向け最軽量でブロンブトン用 (実測 300g 以下)

東京サンエス 体験ライド & シクロクロスレッスン 共催：(公財) 埼玉県公園緑地協会

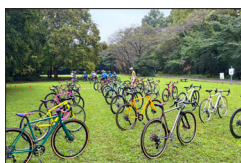
9 月 12-14 日に埼玉県の「秋ヶ瀬公園」と「SAN-ESU BASE 羽根倉通り KURU」にて試乗 & レッスン & ライドとトークショーのイベントを行いました。

▶ 恒例となった辻浦圭一氏と鈴木来人選手が講師を務めるシクロクロスレッスンから、今回初開催のグラベルライド (サイクリング)、そして全 23 台を揃えた試乗会、更には OnebyESU オーナーを迎えての KURU でのトークセッションなど、少し天候には恵まれなかったものの 100 名を超える皆様に参加いただきました。ありがとうございました。

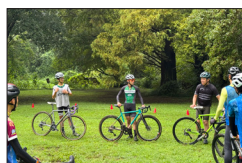
また来年も開催の予定です。



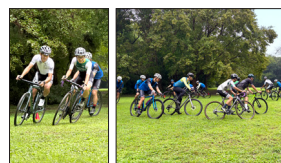
▲ライドと試乗会とレッスンが同時進行する緑豊かな秋ヶ瀬公園こどもの森



▲ OnebyESU の全モデル (多くのサイズ) と RITCHEY と SOMA の試乗車総数 23 台を揃える



▲シクロクロスレッスンは、辻浦圭一氏と鈴木来人選手が講師 (来人選手は 10 月末までアメリカで UCI の 8 レースに参戦中です)



▲集団走行のレッスンを引くのは共にエリートライダーである埼玉大学の梅澤選手と、飛び入り参加の白杵レーシング加藤健悟選手・・・楽しそう



▲グラベルライドは A/B 班に分かれて熟練者がリーダーとなり近隣の荒川グラベルライドを楽しむツアー



▲C 班は走行前の安全走行講習から近隣のスポットを巡る緩やかなサイクリング



▲ KURU 店内にての辻浦圭一氏と鈴木来人選手や OnebyESU 4 モデルのオーナーさん 4 名に参加いただきそれぞれの自転車カスタマイズや楽しみ方を機材交えてお話いただくトークセッションを開催
※この模様は近々に動画で配信予定です。